

2750 石光商事

森本 茂 (モリモト シゲル)

石光商事株式会社社長

GO GO PLAN 達成を目指し、諸施策を実行中

◆平成 25 年 3 月期第 2 四半期連結決算の概要

常務取締役執行役員管理部門長 山根清文

当第 2 四半期の売上高は 164 億 8 百万円(前年同期 170 億 91 百万円、前年同期比 4.0%減)、売上総利益は 19 億 87 百万円(同 3.2%減)となった。売上総利益率は 12.1%と前年同期比 0.1 ポイント改善した。

営業利益は 60 百万円(前年同期 0.8 百万円)、経常損失は 45 百万円(前年同期は経常利益 30 百万円)、四半期純損失は 80 百万円(前年同期は四半期純利益 1 億円)となった。

営業利益が増加したのは、売上総利益の減少 65 百万円があったものの、物流費 51 百万円、人件費等 68 百万円の減少等、販売管理費が 1 億 25 百万円減少したためである。一方経常利益が減少したのは持分法投資損失 66 百万円があったためであり、また四半期純利益の減少は法人税等の増加 10 百万円、法人税等調整額の増加 88 百万円によるものである。

売上高を品目別に見ると、コーヒー・飲料部門(売上高構成比 30.8%)が 50 億 45 百万円(前年同期比 7.4%減)、食品部門(売上高構成比 61.0%)が 100 億 18 百万円(前年同期比 2.2%減)、海外事業部門(売上高構成比 8.2%)が 13 億 44 百万円(前年同期比 3.7%減)と減少した。

コーヒー・飲料部門では、茶類が 7 億 71 百万円(前年同期比 1.8%増)と増加したものの、コーヒー生豆相場(ニューヨーク先物期近銘柄で見ると、平成 24 年 3 月期の平均が 240.63 セント/ポンドに対し、平成 25 年 3 月期第 2 四半期は 170.05 セント/ポンドに低下、下期に入っても 10 月 164.74、11 月 149.87 セント/ポンドと下落)の影響から販売価格が低下したため 28 億 51 百万円(同 12.7%減)となり、コーヒー加工品も 14 億 22 百万円(同 0.2%減)と減少、食品部門では、水産および調理冷食が 29 億 44 百万円(同 3.8%増)、農産および食品開発が 28 億円(同 3.6%増)と増加したものの、加工食品の国内メーカーの常温食品、冷凍食品が 42 億 73 百万円(同 9.2%減)と減少、海外事業部門では、中国向け輸出が減少した。

次に売上総利益率(全体では前年同期比 0.1 ポイント改善)を品目別に見ると、コーヒー・飲料部門が 1.5 ポイント増加、食品部門が 0.6 ポイント減少、海外事業部門が 0.2 ポイント増加となった。コーヒー・飲料部門の利益率増加の要因は、コーヒー生豆相場の緩やかな下落によるものである。食品部門の利益率減少の要因は、水産および調理冷食の原材料価格の上昇によるものである。

連結貸借対照表では、資産合計 205 億 11 百万円(前期比 2 億 60 百万円減)、負債合計 131 億 80 百万円(同 1 億 33 百万円増)、純資産合計 73 億 30 百万円(同 3 億 94 百万円減)、以上の結果、自己資本比率は 34.9%と前期比 1.4 ポイント減少した。

資産合計の減少は、売上債権の減少 4 億 10 百万円が主因である。また負債合計は 131 億 80 百万円と前期比 1 億 33 百万円増加しているが、主として仕入債務が 4 億 36 百万円増加、借入金金が 4 億 20 百万円減少。さらに純資産合計は、73 億 30 百万円と前期比 3 億 94 百万円と減少。主として四半期純損失 80 百万円、配当金の支払い 77 百万円および繰延ヘッジ損益の減少 2 億 30 百万円があったためである。

連結キャッシュ・フローを見ると、営業活動キャッシュ・フローは10億51百万円、投資活動キャッシュ・フローはマイナス41百万円、財務活動キャッシュ・フローはマイナス6億36百万円となり、現金等は3億73百万円増加となった。これに連結範囲変更に伴う現金等の増加39百万円が加わり、現金等の四半期末残高は32億44百万円となった。営業活動キャッシュ・フローの主な要因は、売上債権の減少4億10百万円、仕入債務の増加4億36百万円によるものである。また投資活動キャッシュ・フローの主な要因は、固定資産取得による支出8百万円、貸付による支出29百万円によるものである。さらに財務活動キャッシュ・フローの主な要因は、借入金収支による支出4億20百万円、社債償還による支出90百万円によるものである。連結範囲変更に伴う現金等の増加は石光商貿(上海)有限公司への出資金である。

なお持分法適用関連会社東京アライドコーヒーローズ(株)について付言すると、平成24年12月期第2四半期は、売上高63億4百万円(前年同期比4.0%増)と増収となったものの、コーヒー相場の影響により四半期純損失1億65百万円(前年同期は四半期純利益1億45百万円)となった。同社に対する当社持分比率は40.1%で、持分法投資損失は66百万円であった。

◆平成25年3月期通期業績見通し

売上高357億2百万円(前期比1.9%増)、営業利益4億73百万円(同349.2%増)、経常利益3億96百万円(同387.7%増)、当期純利益2億12百万円(同39.2%増)と増収・増益の計画である。

売上高は、既存事業の見直し(集中管理、業務効率改善、営業効率向上、カテゴリ収益率向上)を行うとともに、新規事業(新商品開発、新規顧客開拓、海外事業)に注力する。利益面では、第2四半期においてコーヒー生豆相場の影響、外食産業向け加工食品および調理冷食の売上高の減少等から計画を下回ったが、不良債権、商品廃棄等のロスのゼロ化、業務改革によるコスト削減、得意先・商品の選択と集中により利益を確保していく。

◆中期的展望—「THE GLOBAL FOOD MERCHANDISER」を目指して

代表取締役社長執行役員 森本 茂

上半期の総括について、前期は主力商品であるコーヒーの原料高を製品価格に反映することができず、コーヒー加工品カテゴリで売買損が発生。また主力マーケットである外食業界も客数・客単価の低下に歯止めが掛からない等厳しい環境下にあった。今期平成25年3月期は既存事業を見直し、効率化、低コスト化し収益率のアップを図ると共に、新しい取り組み、特に海外事業に力を入れようということで「Check & Action」を目標に掲げる。施策は、第1に既存事業の見直し(業務効率10%アップ、顧客コンタクトアップ、カテゴリ収益率アップ)、第2に新しい取り組み(新規顧客開拓、新商品開発、新情報システム導入)、第3に海外事業(中国事業拡大、タイ現地法人設立)、である。当上半期の業績については、減収微増益となる。減収の要因はコーヒー相場下落、外食低調による売上高の減少、中国向け輸出の減少等である。

下半期・通期については、コーヒー相場の動向、為替の動向、景気の動向等が不透明ながらも、上半期に仕掛けた各種提案・施策により売上高拡大、費用削減等が成果となって現れ、通期予想を達成出来るものと考えている。以下顧客深耕・創造営業活動、業務効率化、GO GO PLANの順に施策を具体的にご説明したい。

まず顧客深耕・創造営業活動については、商社にとって重要な営業力、情報力の向上のために前期から準備していた営業支援システム(社内で「顧客深耕創造システム」と呼ぶ商談視覚化ツール)を11月から稼働させた。営業担当全員がスマートフォンを持ち、タイムリー・スピーディに情報入手、共有化することにより営業生産性向上に役立っている。

次に業務効率化については、管理部門を中心に時間管理の徹底を図っている。30分単位で仕事をスケジュール化し、実際の完了時間との差異を検証しながら、より効率的な取り組みを検討。また各店で行っていた経理・総務業務の集約化、受発注・入力業務を外部化することにより、顧客対応の向上、営業サポートの充実、に成果を

挙げるものと期待している。

そしてGO GO PLANの進捗については、まずコーヒー部門では、「お客様と共に品質を作り込む」というテーマで商品開発・原料提案を行う。ロースター・飲料メーカー向け勉強会の開催、外食・量販店向けの品質改善に対する提案。また量販店等向けのレギュラーコーヒー・インスタントコーヒー、飲料メーカー向けの原料販売等に成果がある。

次に食品部門では、加工食品カテゴリーのイタリアンに力を入れている。30 年来、取り扱ったパスタメーカーとの取引を停止し、11 月から新ブランド「TESORO DI CAMPAGNA」(田舎の宝物)を立ち上げた。イタリア各地に埋もれる美味しさを発掘して商品化するプロジェクトであり、第 1 弾としてパスタを導入し、発売以来、好評をいただき好調なスタートを切っている。農産カテゴリーでは、新しい取り組みが始まっている。例えば食品チームとのコラボレーションによる大手外食チェーン向け野菜の加工品や菓子メーカー向け生姜の砂糖漬け加工済原料の販売、野菜については、単に原料だけでなくメニューを提案、またインドネシアの農園ではズッキーニの栽培を開始、今後現地加工の上、輸入していく予定である。

今年 3 月に設立した石光商貿(上海)有限公司のコーヒー生豆販売は、日本からのコーヒー原料輸入規制や中国での通関手続きの遅れにより、予定より大幅に遅れているが通関が切れた商品から順次販売が始まっている。また当社の安全性や香味の分析データと共に原料を提案する手法が評価され、現地ロースター向けに開催のコーヒーセミナーも好評に推移している。

来年 3 月タイ・バンコク市において設立予定の「THAI ISHIMITSU CO.,LTD.(予定)」は、「食品・食材の仕入れ販売並びに輸出入、飲食業」を事業目的とし、資本金 400 万バーツ、当社出資比率は 49%、の計画で準備中である。

◆終わりに

当社は「世界中の人々の美味しい笑顔のために」に「食」ビジネスに取り組んで参りたい。

◆質 疑 応 答◆

中国事業について、秋以降反日傾向はないか、事業の将来展望も含めて伺いたい。

コーヒーメーカー対象に原料提供、セミナー開催をしているが、反日感情はほとんどない。将来うまくいかなかった場合には撤退もありうるが、今その懸念は全くない。

(平成 24 年 12 月 6 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://www.ishimitsu.co.jp/system/wp-content/uploads//2012/12/fcdef8559c6dedaafae6cf2d8cabca1.pdf>